



優秀賞

つなぐ・つながれた優しさ

京都市立御所南小学校 6年 田中 杏奈

夏休みに入つてすぐのところ、私はとても心が温まる体験をしました。私のお母さんはゲストハウスと一緒に作った飲食店をしています。その日はお店が休みで、私はお母さんと一緒に店のそうじをしていました。その時、店の前でふつうではない様子の方がいたので、私は母と声をかけました。話を聞くとその方は、トイレをかしてほしいがどこからも断られて大変困っているとのことでした。母と私はゲストハウスのトイレを案内し、今日は休みで他のお客様もないので、ゆつくり自由に使ってくださいと伝えて、店のそうじにもどりました。お連れの方から、その方が間に合わずに服をよごしてしまっているの、近くに服を売っているお店はないかとたずねられましたが、このあたりにそのようなお店はありません。すると母は急いで家へもどり、自分の洋服を数枚、持つてきました。そして、この服でよければ使ってくださいと言い、わたししました。それから、ゲストハウスの洗たく機や洗面所、シャワー室を使つてもらい、服と体をきれいにしてもらいました。そして後日、手紙と一緒にバッグが送られてきました。その手紙には、「外見では分からなかったのですが、足が不自由なため、トイレのコントロールが上手くできない。」と書かれています。その方にとつて私達がトイレをかしたことは、大変重要な事だったのです。手紙と一緒に、手作りのバッグをいただきました。夏の青空のように、きれいな青色のバッグでした。自分にとつて当たり前だと思っていた何気ない行動も誰かにとつては、特別なことであるということ強く感じました。このような経験により、ふだんの生活の中でも、自分ができることや、相手や周りの人を考えた行動がその相手につながり、またそれが自分につながって返ってくるように、多くの人の輪が繋がれば、いいと思います。